

リスク備え 強靱な経済を

霜は軍営に満ちて秋気清し／数行の過雁月三更／越山併せ得たり能州の景／遮莫（さもあらばあれ）家郷の遠征を思うを

上杉謙信作と伝わる漢詩は、越後まで見渡した北陸の自然の雄大さと美しさを今に伝える。十三夜の月と雁の群れは、風情ある秋の夜の情景。心ゆくまで名月を愛でたい気持ちもつかの間、「雁」は中央銀行員に別の思いを呼び起こす。

雁は群れて餌をついばんでいる時にも、1羽だけ首をもたげて辺りをうかがい、不意の難に備えて番をする。これを奴雁どがんという。「奴雁たれ」。第24代日本銀行総裁を務めた前川春雄が考えを示し、多くの日本銀行員が大切にしてきた精神だ。

経済情勢において、リスクは時々姿を変えて蓄積される。従来の分析の範囲・枠組みの外にも留意し、常に点検を怠らないことの重要性を伝えている。新型コロナウイルス感染症対策と社会経済活動の再開は両立しつつあり、経済の大きな改善の流れは保たれている。

ただ、昨今の国際情勢などを背景としたコストプッシュ型の物価上昇は、エネルギー・金属・穀物など品目にばらつきがあり、価格上昇・調達難で影響を受ける度合いは業種・規模ごとに様々だ。

多くの原材料で製品を作る加工業種では、仕入れ価格の上昇を販売価格に転嫁するまで、取引先との交渉も含め時間がかかる。また、「食」を支えている1次産業は、構造的に利益率が高くなく、価格上昇の逆風を強く受けるなど、収益面で受けるインパクト・タイミングは一律ではない。丁寧なフォローが大切だ。

企業経営にとって、難しい局面であるが、北陸でも、調達ルートの複線化や、地産地消的に新工場を立地させ、価格上昇やサプライチェーンの混乱などへの耐性を強める動きがある。今こそ、事業計画のシナリオに幅を持たせてリスクへの備えを万全にし、北陸の強みである強靱きょうじんさに磨きをかけることに期待したい。

近年は、豪雨・台風といった自然災害も想定を上回ることが増えている。日本銀行でも注力しているが、リスクシナリオに応じた業務継続体制の整備についても、経済界でさらに意識を高め、必要な対策を見直しておきたい。

2024年春の新幹線開業に向けて、敦賀駅西口をはじめ、街の整備が進む。「ここは越の国ですよ」、福井県敦賀市を訪れた際、歴史通の日銀福井事務所長が教えてくれた。「越前」が正史にみえる7世紀末まで、越前から越後までの東西にわたる範囲は「越の国」であった。港町の金ヶ崎、気比の松原には、名月を求めた松尾芭蕉の足跡も残る。隣の「若狭国」の三方五湖に整備されたレインボーラインからの眺めは絶景だ。昨年度、石川・富山から福井への観光客は大きく増加し、関心が高まっている。

来たる日に向けて、北陸の魅力を一体でアピールする機運を高めることも、地域経済を盛り立てる。名月を愛で、歴史に思いをはせつつ、北陸の素晴らしさを再発見するトップシーズンの到来である。